

特集面その6

「労働遺産認定・第44回野麦峠まつり開催」

松本市奈川 野麦峠まつり実行委員長 忠地愛男

本年5月24日（日）に、2年ぶりに旧野麦街道の記念山行を伴う第44回野麦峠まつりを開催しました。

この行事は、旧奈川村時代の昭和58年に第1回を開催以来、野麦峠を越えて製糸業に携わった工女たちを偲び開催されているものです。

当時は、奈川地区は農林業から観光へと地域経済が変わりつつあり、折しも山本茂美先生の小説「あゝ野麦峠」の発刊、さらには大竹しのぶさん主演の映画化により、長野県奈川村と飛騨高根村の県境の野麦峠が製糸業の女工哀史とともに一躍全国的に有名となったものです。

地域では観光誘客の一環もありましたが、飛騨高根村のご協力をいただき地区内外から多くの参加者を募り、奈川地区の春の訪れを祝うとともに野麦峠の開山祭としての要素も踏まえ、新緑の野麦街道を工女姿に扮した児童生徒と歩く一大イベントとして定着してまいりました。

そして、本年1月、日本労働ペンクラブ総会の席に於いて、歴史的な出来事を後世に伝え、旧野麦街道と石碑・石像、工女宿宝来屋、野麦峠まつりが、高山市高根の製糸工女の野麦峠越えの苦難を伝える石碑・石像とともに労働遺産認定を賜りました。

認定に際し、ご尽力いただきました日本労働ペンクラブの皆様、プレゼンテーションをいただいた前(株)ふるさと奈川代表取締役奥原仁作様はじめ、多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。さらには、第1回開催以来野麦峠まつりの開催継続に尽力された先人並びに関係者の皆様に重ねて敬意と感謝を申し上げます。

また、開催当日は、日本労働ペンクラブ代表の植木様はじめ多くの皆様にご参加いただき祭りに華を添えていただきましたことにも改めてお礼申し上げます。

野麦峠まつりは、これまで往時をしのびつつ、新緑の旧野麦街道を歩くイベントとして継続してまいりましたが、コロナ禍で開催を見送らざるを得ない時期もありました。しか

しそれは、この行事のあり方、製糸業と工女、野麦街道の歴史を見つめ直す機会ともなりました。

歴史を後世に繋ぐべく、関係者による勉強会を通じ地域に残されている資料の再確認とともに、当時を知る元工女からの聞き取り、飛騨の語り部である鮎飛定男氏の証言、岡谷市の蚕糸博物館の解説等を映像化する「野麦峠ミュージアム」の作成とともに、奈川地区の歴史マップや歴史年表に至りました。

公民館等による製糸業・工女・野麦街道の歴史講座、奈川小中学校のふるさと学習として、野麦街道の歴史・石造物の学習など、旧野麦街道を取り巻く歴史認識のアップデートを図ってまいりました。

本年は高山市飛騨高根観光協会におきましても、映画「あゝ野麦峠」のデジタルリマスター版の特別上映会の開催や野麦峠まつりの共催化など、野麦峠をまたぐ飛騨高根地区と信州奈川地区の野麦峠まつりに対する協力関係も一層深まりを増しました。

今後も製糸産業並びに携わった工女達が越えた野麦峠の歴史を後世に繋ぐべく両地区がさらに協力して野麦峠まつりを継続してまいりますので、機会あるごとに関係皆様のご参加とご助言をいただきますれば幸いです。